



北東上空から見た高速道路全景 (2016年2月)



本線部：1.92km
 ランプ部 (3本)：2.19km
 橋脚本線：58基
 ランプ&フライオーバー：58基
 橋台：7基
 PC-U桁 桁長：17.0～36.0m、689本
 鋼橋桁：65.0m、3カ所、1324t
 アスファルト舗装工事：81,600㎡
 コンクリート舗装工事：77,900㎡
 その他：橋梁付属物工事、道路付帯設備工事、道路土工事、排水工事

タンジュンプリオク アクセスロード 建設工事 (その2)

株式会社大林組海外支店・ジャカルタ高架橋工事事務所 所長

大西陽子

Yuko Ohnishi



大型Y型橋脚及びランプ交差部 (2016年3月)

同国最大の貿易港である。周辺道路ではコンテナや貨物を輸送する大型車両が非常に多く、通行能力の限界が近くなっている。これらによる慢性的な交通渋滞を緩和するため、高速道路の整備が進められている。

本整備は、港の出入り口から東西方向と南北方向に高架及び立体交差化を進める工事で、日本の有償援助工事 (STEP案件) 本邦技術活用案件) である。工区は全六工区に分割されており、当社JVは港への接続部分に当たる、最大規模のE2A工区を担当している。

工期はこれまで三回延伸されており、現在は二〇一二年一月～二〇一六年八月 (予定) となっている。工事の具体的な内容は表の通りである。このほか、追加で発注されたランプ工事

終わりに

土地収用の遅れや建設作業員の不足、長い雨季による洪水被害、Kira-kira (キラキラ) Ⅱ 大体」というインドネシアの国民性。工事を計画どおりに進められないこともあるが、この国の更なる発展を支えるべく、竣工を目指してこれからも現地スタッフと共に奮闘していく。

建設ラッシュが続くジャカルタでは、建設作業員及びローカルの現場監督が不足していることから、工程管理上、各段階における建設作業員の確保が重要となる。また、冒頭でもご紹介したとおり、インドネシアは世界最多のイスラム教徒を抱える国。ラマダン (断食) 期間中は、工事の進捗率が低下することを前提に工程を組むといった配慮が必要である。

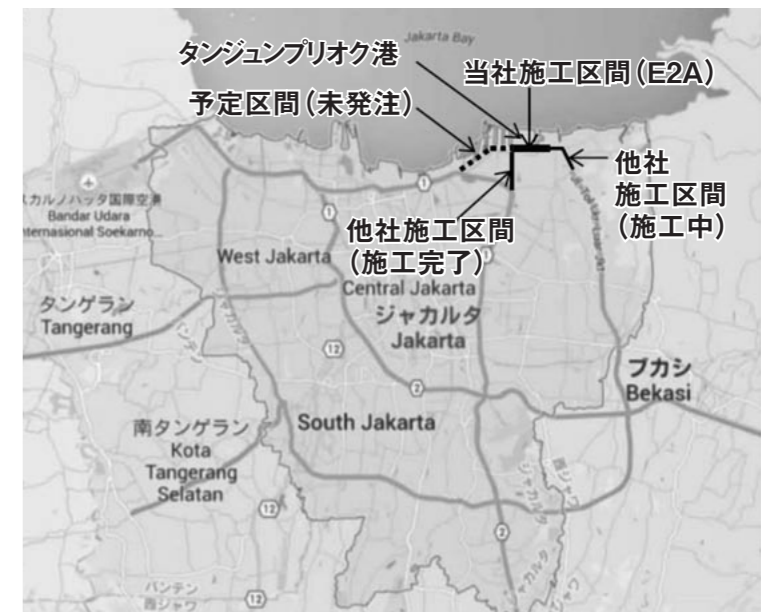
トピックス

工区周辺は交通量が非常に多く、渋滞が頻発する既存の道路と作業エリアが近接しているため、道路切替えを頻繁に行う必要があった。新設する道路の幅員は最大で五〇mもあり、一部では三層に立体交差するので構造が複雑。パズルを解くように施工順序を検討し慎重に工事を進めてきた。

(四八五m) がある。

インドネシア共和国の紹介

インドネシア共和国は東南アジアの南に位置しており、一万以上の島々で構成されている。世界最大のイスラム人口国として知られており、人口約二億五千万人のうち、九割近くがイスラム教徒である。主要産業は二輪車などの輸送機器製造で、日系企業が集まる工業団地も多い。



施工位置図



施工エリア周辺は常に渋滞 (2014年5月)

プロジェクトの概要

外国資本の流入により経済発展の著しい首都ジャカルタは、人口が二千万人を超え、アジア屈指の大都市となる一方で慢性的な交通渋滞が発生しており、交通整備が喫緊の課題となっている。